



都幾川源流（ときがわ町 大野）

かわはく No.55

CONTENTS

かわはくりフレッシュオープンにあたって……………	2
リフレッシュオープンイベント開催のご案内……………	2
開催案内 平成28年度特別展「都幾川・槻川」……………	3
荒川ゼミナール「歩いて学ぶ、地形と防災」開催報告……………	4
開催報告 図書館巡回展「もしもに備える～自然災害に学ぶ～」関連イベント ……	5
閉館中のイベント報告 ミニモノリスづくり、かわはくミニまつり……………	6
特集コラム：シリーズ堤防の話 第3回「山付堤と川幅日本一」……………	7
昆虫採集と標本づくりキャンプのお知らせ……………	7



かわはくリフレッシュオープンにあたって

埼玉県立川の博物館は、本館およびレストハウスの改修工事のため、昨年12月1日から今年の3月31日まで閉館していましたが、4月1日いよいよオープンする運びになりました。改修内容は、耐震工事、防水工事などで直接お客様が目にして変化を認識できる展示のところではありません。川博としては、このように4ヶ月休館しましたが、いわゆる展示やアトラクションが新しくならないために、新鮮みを出すには、何か出来ることかなにかないかと考えました。去る11月27日タモリ倶楽部で放映された荒川大模型の状態がひどい状態で放映され、その後映像を見て来館された方が、もう少しどうにかなりませんかと4月にオープンするときにはきれいになっている事を期待する

など様々なご意見が来ました。ですから、スタッフ全員で荒川大模型の修繕とお化粧直しをすることにしました。非常に時間がかかりましたが、オープンの時、少しはきれいな大模型になっているのではと思っています。そのほか、現状の物理的バリアフリーを変えて良くすることは難しいのですが、精神的なバリアフリーは出来るのではないかと手話、点字、車いすそれに高齢者対応などに対してのスタッフ研修を行いました。少しでも障害のある人または海外の人に対してバリアが低くなり、多様な来館者を迎えられるように準備いたしました。

是非、4月1日の川の博物館の再開を楽しみにしていただきたいと思います。

(館長 平山良治)

リフレッシュオープンイベント 開催のご案内

ちっどんぱー
きれいになったんよ〜
ちよっくらよってみてくんね〜

設備改修工事のために昨年12月から休館していましたが、4月1日からリフレッシュオープンします。春の再開ということで、「華」をテーマに、4/1〜5/8をオープンイベント月間として、様々な催しを開催いたします。

目玉イベントは、“館長と行く「かわはくぐるっとツアー」”(4/1〜4/3)です。これは、荒川大模型173や鉄砲堰、荷船など、かわはくの見どころ展示を館長とともに見て歩くツアーです。各展示には解説員が待っていて、詳しい解説を行います。ツアー参加後は、かわはくに詳しくなっている事、間違いなしです。

期間中のミニ展示として“川と海はつながっている”「華やかな水の中の生きものたち」も行います。クラゲやウミウシ、ハマクマノミなど色鮮やかな水中の生きものの展示です。展示の近くでは、4/1〜4/3の間、「君の描いた絵が動く! “かわはく水族園”」(有料)も開催。紙に好きな絵を描きスキャナーで読み取ると、画面に出てきたイラストが動き出します。ぜひ、実際の生きものを観察しながらそれを絵に描いてみてくださいね。

オープンイベント月間に2回来館すると、オ

リジナルタオルのプレゼントがあります。これは先着300名様へプレゼント。無くなり次第終了になります。

他にも楽しい催しを行いますので(裏表紙をご参照ください)、再開したかわはくに遊びにいらしてください。

(広報担当 若目田葉子)



カワシロウ



開催案内

平成28年度特別展

「都幾川・槻川」

開催期間：平成28年4月1日(金)～6月19日(日)

カジカガエルが鳴き、ホタルが舞う「都幾川・槻川」。荒川水系屈指の清流を誇るこの川は、県内では稀少となった生物が多く生育する、多様で豊かな自然が特徴です。また流域には、国宝を有する名刹「慈光寺」、ユネスコ文化遺産「細川紙」などの優れた文化に加え、嵐山溪谷や三波溪谷などの景勝地や見どころも多数存在します。埼玉県事業「川のまるごと再生プロジェクト」で整備が進み、川遊びがしやすくなった都幾川・槻川。川遊びがもつたのしくなる、川の魅力を紹介します。

▼展示構成

都幾川・槻川ってどんな川？

都幾川・槻川流域の地図をはじめとして、流域の気候や、植生、治水などについて基本的な情報を解説します。

清流の生物たち

流域にはどんな生物がいるのでしょうか。川原で見られる魚や鳥のほか、トンボをはじめとする豊富な水生昆虫について剥製や写真で紹介합니다。鳥の声のような鳴き声をもつカジカガエルの拡大模型も登場します。

また、もともと生息する生物たちを時には脅かす存在となる外来種について、剥製の展示と併せて解説します。

川原の石の物語

都幾川・槻川の石の色はどんな色？流域に緑色岩が分布する都幾川・槻川は川原の石も緑色が中心です。荒川本流の石と見比べながら実物を手に取って観察できるコーナーです。

川とつながる・川を守る

川は時には脅威となりつつも、私たちにとって憩いの場、遊びの場となります。川での遊び方やおすすめ情報、川の学習の例や都幾川の河川環境を守る活動などを紹介し、川と私たちのつながりや川を守ることについて考えるコーナーです。



都幾川のカモ（わかるかな？）

荒川の支流にスポットをあて、川を中心とした流域の魅力をお伝えします。またスロープ展は「文化編」と題し、流域の歴史や文化について紹介します。是非併せてご覧いただければと思います。

(研究交流部 藤田宏之)

イベント情報 (裏表紙もご覧ください)

■ 講演会

○ 「都幾川・槻川の自然」

日時：4月10日(日) 13:30～15:00
講師：新井浩二氏 (嵐山町環境農政課)
場所：ふれあいホール
参加費：無料

■ DVD上映会

○ 「細川紙」「萩日吉神社のやぶさめ」

日時：4月9日(土)・29日(金)
①11:00～ ②13:00～
場所：ふれあいホール
参加費：無料

■ 屋外イベント

① 都幾川と槻川の合流点を歩く

日時：4月3日(日) 9:30～15:30
集合・解散：東武東上線「武蔵嵐山」駅西口
参加費：100円(保険料)

② 川の生物観察と川の流れを学ぶ教室

日時：5月22日(日) 9:30～14:30
集合・解散：ときがわ町農村文化交流センター
参加費：100円(保険料)

③ 小川町の槻川沿いを歩く

日時：5月29日(日) 9:00～15:00
集合・解散：東武東上線「小川町」駅
参加費：100円(保険料)



荒川ゼミナール

「歩いて学ぶ、地形と防災」開催報告

12月～3月の当館休館中の期間を利用し、荒川ゼミナール「歩いて学ぶ、地形と防災」（全4回）を開催しました。

このイベントは、月に1回のペースで開催し、これまでに当館で実施してきた、河川に関するウォーキングイベントの内容を、より一層防災ネタや地形ネタ（特に河川が関係する地形ネタ）に特化した形で実施しました。

今回は、実施した全4回の内容をダイジェスト版で順番に紹介していきたいと思います。

12月に実施した、記念すべき第1回目。行き先は、埼玉県比企郡吉見町。イベントタイトルは「吉見町の水塚探検」。見学のメインはもちろん水防施設である「水塚」。水塚は、荒川流域では上流は熊谷市から下流は東京都北区まで分布しており、訪れた吉見町は特に水塚の分布が集中している地域の1つです。その吉見町で「水塚」を見学しながらウォーキングするのが記念すべき1回目のテーマ。盛土が4mを越える水塚や、「カマエボリ」を備えた水塚など、様々な型式の水塚を見学しました。水塚以外にも「吉見領大囲堤」の見学や、吉見町、そして隣町である比企郡川島町の集落が弧線状に分布している謎について、まさにそのような形態の集落内を歩いて解説しました（写真1）。

1月に実施した、2回目。行き先は、埼玉県春日部市（旧北葛飾郡庄和町）。イベントタイトルは「首都圏外郭放水路探検」。見学のメインはこちらも一目瞭然、地下神殿としても有名な「首都圏外郭放水路」。首都圏外郭放水路は、洪水になりやすい中川や大落古利根川などの水を、より大きな川である江戸川に流すために、地下に掘削された放水路です。イベント当日は地下神殿こと、調圧水槽内部の見学をはじめ、放水路周辺を散策しながら、18号水路側の第二立抗の見学や、台地に刻まれた開析谷等の見学をあわせて行いました（写真2）。

2月に実施した、3回目。行き先は埼玉県比企郡川島町から桶川市を抜けて、上尾市まで。イベントタイトルは「荒川の堤防探検～山付堤と横堤～」。見学のメインは、荒川流域に整備された特異な堤防である横堤と山付堤（山付堤の詳細い説明については今号の特集コラムをご覧ください）の見学。横堤は増水した川の流れを緩やかにするために整備された堤防で、イベント当日は参加者の皆様に、横堤の天端部等を実際に歩きながらゆっくりと見学していただきました。来年度は荒

川の堤防見学ウォーキング第二弾として、「荒川の堤防探検Ⅱ～背割堤を歩く～」を開催する予定です。荒川と入間川の合流点に築かれた背割堤を歩きながらゆっくり見学してみませんか？参加お待ちしております。

最後になりました、3月に実施しました4回目。行き先は、東京のど真ん中、千代田区と中央区。イベントタイトルは「佃島と日本水準原点をめぐるウォーキング」。見学のメインは日本の標高の基準である「日本水準原点」と、かつての荒川（隅田川）のゴールである佃島（月島）。参加者の皆様には混同しがちな「高さ」に関するキーワードを、歩きながら、そして見学しながら、じっくり学んでいただきました。

休館中に実施した全4回のウォーキングイベント「歩いて学ぶ、地形と防災」。イベントのタイトルは変更されますが、来年度以降も引き続き、歩きながら地形の不思議や河川の歴史を学ぶイベントを随時企画し、実施していきます。この記事をお読みになられ、ちょっとでも興味を持たれた方はぜひご参加いただければと思います。皆様の参加をお待ちしております。

（研究交流部 羽田武朗）



写真1 「吉見町の水塚探検」実施風景



写真2 「首都圏外郭放水路探検」実施風景



..... 開催報告

図書館巡回展 「もしもに備える～自然災害に学ぶ～」 関連イベント

当館の設備改修工事による休館期間を利用し、過去の企画展で特に反響の大きかった「自然災害」をテーマとした展示を再構成し、新規の展示として、県内外の3カ所の図書館を巡回する、巡回展示を開催しました。それらの展示開催地では、私が担当学芸員としてだけでなく、防災士として講師となり「防災士と学ぶワークショップ」を各地で1回ずつ開催させて頂きました。ここでは、この巡回展の開催日程と、関連イベントについて報告します。



写真1 図上演習の様子

①吉川市立図書館

展示期間：2016年1月7日(木)～1月24日(日)

ここでは、一般を対象とした「地域防災のためのワークショップ～ハザードマップの見方とその活用～」を実施しました(写真1・2)。

参加者には数名ずつのグループに分かれてもらい、大きな地図を使って「地図の読み方」と「地図の活用方法」を地図上での作業を通して学んで頂き(図上演習)、身近な地域(吉川市周辺)がどのような地理的環境にあるのか、どのような自然災害が起こり得るのかを参加者自らに考えて頂き、私はその手助けをする役割を担いました。また、過去の災害を知ることが地域の防災力向上へと繋がるように、巡回展示の内容で関連のある部分について展示解説を行いました。



写真2 展示解説の様子

②八潮市立八條図書館

展示期間：2016年1月26日(火)～2月14日(日)

ここでは、小学生を対象とした「親子のための防災ワークショップ」を実施しました(写真3)。

「もしもの時、身近なものが役に立つかも知れない」という知恵を得てもらうことと同時に、家庭に戻ってから家族での話し合いの場がもてるように、親子のペアでイベントに参加して頂きました。



写真3 親子のための防災ワークショップA

③新宿区立戸山図書館

展示期間：2016年3月1日(火)～4月24日(日)

こちらでも「親子のための防災ワークショップ」を実施しましたが、小さなお子様のいるご家族にも参加して頂きやすいように、よりアットホームな形式でのイベントとしました(写真4)。

防災士として、普段私がどのようなことを考えているのかをお伝えするとともに、親子で楽しめる防災グッズ作りの工作や防災クイズを通して、命の守り方を考えて頂きました。

(研究交流部 杉内由佳)



写真4 親子のための防災ワークショップB



閉館中のイベント報告

ミニモノリスづくり

○小川町立図書館：1月30日
 ○秩父市立図書館：2月20日
 ○熊谷市中央公民館：2月27日

モノリスと聞いても知らない人が殆どでしょうか。モノリスとは足下にある「土」を標本にしたものです。土は地味で目立たない存在かもしれませんが、観察すると深さや場所（土の種類）によって色や触った感じが違うものなのです。モノリスはその場にいらなくても土の様子がわかるように、標本として採取しますが、今回はそのミニチュア版をつくって、土の様子を学びながら土を楽しむイベントとして開催しました。

土は当たり前にあるようですが、岩石などが風化や生き物の働きを受けて、長い時間をかけてできるものです。この土があるから生き物は死ぬと土に還り、新しい命が土から生まれます。陸上の生き物の根源は土にあるといってもよいでしょう。土の大切さをもっと認識するために、国連は2015年を国際土壌年としました。

とは言っても、私たちにはなかなか難しい話かも知れません。今回はミニモノリスをアート作品として作ることをきっかけに、土の色や手触りを知り、また土ってどういうもの？というお話も交

えて土に興味をもってもらえれば、という意図で企画しました。小学校1年生から6年生までの親子に参加いただきました。土の話は少し難しいとの声もありましたが、「ふだん何気なくみる土を改めて考えさせられました」「地域によって色がさまざまだという事がわかり、勉強になりました」「ふだんめだたない土をきれいなモノリスにできた」といった感想があり、楽しくモノリスづくりができたようでした。（研究交流部 森圭子）



小川町にて

かわはくミニまつり

4ヶ月の休館の間、寄居町の保育園（寄居・男衾・用土・城南）への訪問や、近隣の図書館、公民館では、出張「かわはくミニまつり」を行いました。

保育園では、クリスマスやお誕生会に合わせ、子どもたちとカワシロウと一緒にダンスをしたり、カワシロウから交流員手作りのペンダントをプレゼントしました。

小さい子の中には、カワシロウを見て、泣き出したり、逃げ回ってしまう子どももいましたが、最後には笑顔になり、カワシロウとの別れを惜しんでくれて、子どもたちには、大変喜んでいただきました。

図書館や公民館では、各会場のスペースの一角をお借りし、来館されたお客様に「ステンドグラスのような絵を描こう」「カワシロウの折り紙」「浮沈子」「的あてゲーム」「缶バッジづくり」などを基本とし、「お正月の折り紙」「鬼のお面づくり」など、季節の工作のワークショップやカワシロウとの記念撮影を楽しんでいただきました。「カワシロウの折り紙」を体験してくれた女の子は、30分かけて熱心に折って、「できた〜！」と、嬉しそ

うに持ち帰ってくれました。手作りの「的あてゲーム」も子どもに人気で、ゲームの景品でプレゼントした交流員手作りの「どんぐりアート」も大変好評でした。

このような館外での活動は、今回が初めてでしたが、お客様にも楽しんでいただく事ができ、交流員も大変貴重な体験をさせていただきました。

今回の館外での活動を機に、今後もこのような活動を継続し、地域の皆様との交流を深めていきたいと思います。（交流員リーダー 神保敏子）



はにぼんプラザ（本庄市）にて



◆ 特集コラム ◆
シリーズ堤防の話

第3回

「山付堤と川幅日本一」

先月号からスタートした特集コラム「シリーズ堤防の話」。今号は第3回目、ひとまず最終回です。

1回目は高麗川の「霞堤」、2回目は都幾川の「旧堤」について紹介しました。最終回となる今回は、荒川の「山付堤」について紹介します。

山付堤の紹介を始める前に、皆さんに質問があります。「堤防」と聞くと、皆さんはどんな光景あるいはどんな堤防を思い浮かべますか？

例えば、川の両岸に、切れ目なく流路に沿った形で整備された、高さもあり幅もあり、私たちの生活を水害から守ってくれている、立派な堤防を思い浮かべられる方もいらっしゃるかもしれません。

そもそもこの連続して築かれている堤防自体が、「連続堤」と呼ばれる、数ある堤防の種類の中の1種類です。また当然のことながら、このような連続堤は昔からずっとあるわけではなく、現在に至るまでに繰り返し実施されてきた河川改修工事の中で整備された堤防となります。

では、前置きはこのくらいにして、今号の本題、荒川の山付堤の紹介を始めたいと思います。荒川には洪水を防ぐために、切れ目のない立派な堤防が整備されています。しかし、鴻巣市～上尾市にかけての荒川左岸側の堤防部分をよく見てみると、堤防が築かれてある場所はごくわずかで、残りの場所には堤防が築かれていません。

実は、鴻巣市～上尾市にかけての荒川左岸側は、「大宮台地」が「堤防」の代わりに担っている場所が多く存在しています。また同じ地域には、「開析谷」という谷の開口部が、荒川低地に面して広がっている場所もあり、このような場所を中心に堤防が築かれ、「一続きの堤防」が形成されています。

このように、丘陵や台地の一部を堤防の代わりとして利用し、これら丘陵や台地に堤防をつなげ、

一続きの堤防が形成している、このような堤防のことを山付堤といいます。

荒川の両岸には、切れ目のない連続した堤防が整備されているとはいっても、上流から下流に向かってよく見てみると、台地等の自然地形をうまく利用して、堤防が整備されているのです。

最後に、今号の見出しになっている、「山付堤」と「川幅日本一」の関係についてお話して、終わりにしたいと思います。

鴻巣市～吉見町にかけて広がる、広大な「遊水池」、「川幅日本一」のエリア。空から見てみると、荒川右岸側（吉見町側）には、立派な堤防が整備されています。一方左岸側（鴻巣市側）には堤防がほとんど整備されておらず、大宮台地が堤防の代わりに担っており、一部堤防が築かれています。この一部の堤防が、今回紹介した「山付堤」です。

私たちの生活を洪水から守ってくれている、荒川の広大な遊水池。この遊水池の機能を果たすために、実は大宮台地が、そして山付堤が活躍しているのです。
(研究交流部 羽田武朗)



荒川左岸の山付堤（桶川市川田谷）

正面の木立の部分が大宮台地。この部分が堤防としての役割担っている。写真右側、草刈りが済んでいる場所が山付堤。

昆虫採集と標本づくりキャンプのお知らせ

夏期企画展「あざやかないきものたち」構造色をもった生き物」の関連イベントとして、昆虫採集・標本作りキャンプを埼玉県飯能市にある名栗げんきプラザにて8/5-7に行います（申込締切は7/3）。

初日はお昼に集合して自己紹介とオリエンテーションを行い、夕飯後、発電機を使ってライトトラップを行います。明かりに引き寄せられた虫たちを観察・採集します。翌日は周辺を散策し昆虫観察と採集を行います。夜には、採集した昆虫を標本にする時間をとります。短い時間ですが講義も行い、標本をとる必要性などについてお話しします。

前夜に引き続きライトトラップも設置します。最終日の朝には皆さんがどのような昆虫を観察したり採集したのかを発表してもらい、解散となります。

今回、特別に全日程で「電子顕微鏡」に触れるチャンスがあります。日立ハイテクノロジーの方をお招きし、電子顕微鏡を設置していただきます。電子顕微鏡を自分で操作できるまたとないチャンスですので、この機会をお見逃しなく。

詳細は川の博物館学芸員 石井までお問い合わせください（学芸直通電話048-581-8739まで）。

※子供1人につき保護者1名が必ず必要です。

4月

1/金~6/19/日

特別展「都幾川・槻川」
スロープ展「都幾川・槻川（文化編）」

1/金~5/8/日

リフレッシュオープンミニ展示「川と海はつながっている」
「華やかな水の中の生きものたち」

1/金
3/日

リフレッシュオープンイベント第一弾（かわはくまつり）
時間：10：00～16：00
内容：第一展示室と荒川大模型の解説を開き、かわはくを堪能する「館長と行くかわはくぐるっとツアー」、太鼓の演奏会、多摩六都科学館の出張体験教室ほか、日替わりでイベントを開催します。

10/日
17/日
24/日
29/金・祝

リフレッシュオープンイベント 荒川大模型173の解説「ガリバーウォーク」
時間：11：30～14：00 場所：荒川大模型173
費用：無料 定員：各回15名程度

3/日

かわはくであそぼう・まなぼう「桜の押し花づくり」
時間：13：30～15：30 費用：無料
定員：なし 内容：桜の押し花をつくります。
特別展開連イベント兼かわはく体験教室「都幾川と槻川の合流点を歩く」
時間：9：30～15：30
集合・解散：東武東上線「武蔵嵐山」駅西口
費用：100円（保険料） 定員：20名（申込順）
内容：川沿いを歩きながら、流域の歴史や自然を訪ねます。

9/土
29/金・祝

特別展開連イベント DVD上映会
時間：11：00～13：00 場所：ふれあいホール
費用：無料 定員：各回80名
内容：「細川紙」「萩日吉神社のやぶさめ」を上映します。

10/日

特別展開連イベント 講演会「都幾川・槻川の自然」
時間：13：30～15：00
場所：ふれあいホール
講師：新井浩二氏（嵐山町環境農政課）
費用：無料 定員：80名（申込順）
内容：都幾川・槻川の豊かな昆虫相、流域でのオオムラサキ保護活動などについてお話いただきます。

17/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「オタマジャクシを観察しよう」
場所：荒川情報局
時間：13：30～15：30（HPもご確認ください）
費用：無料 定員：随時5名ほど
内容：カエルのオタマジャクシを観察し、解説します。

24/日

荒川ゼミナール 川を知るウォーキング
「川の形と堤防の形を見比べよう！」
時間：9：30～16：00（予定）
集合：東武越生線「西大家」駅
解散：東武東上線「北坂戸」駅
費用：100円（保険料） 定員：20名
内容：ウォーキングをしながら、川の形や、昔の堤防と今の堤防の違いを見比べたり、河川が形成する地形の違いについて学びます。

6月

24/金~10/2/日

スロープ展「空から見た荒川」

5/日

かわはくであそぼう・まなぼう
「環境の日記念・水質調べ」
時間：10：30～12：00 13：30～15：00
費用：無料
定員：なし（材料がなくなり次第終了）
内容：環境の日にちなみ、検査キットで水質調査を体験します。

11/土

かわはく体験教室「竹の水鉄砲づくり」
場所：講座室 時間：13：30～15：30
費用：200円（材料費） 定員：25名（申込順）
内容：竹を使った水鉄砲づくり、的当てを楽しみます。

19/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～
「田んぼの小さな生き物を観察しよう」
場所：荒川情報局 時間：13：30～15：30
費用：無料 定員：随時5名ほど
内容：ミジンコなど、田んぼの小さな生き物を観察し解説します。

5月

3/火・祝~5/木・祝

リフレッシュオープンイベント第二弾（かわはくGWまつり）
時間：10：00～16：00
費用：石積みチャレンジ、折り紙夢工房による折り紙体験、プリザーブドフラワーづくりなど、日替わりでイベントを開催します。

3/火・祝

リフレッシュオープンイベント 荒川大模型173の解説「ガリバーウォーク」
時間：11：00～14：00
場所：荒川大模型173 費用：無料
定員：各回15名程度

7/土

かわはくであそぼう・まなぼう「地質の日記念・ストーンペインティング」
時間：13：30～15：30
費用：無料 定員：なし
内容：荒川の石小に絵を描いて遊びます。

15/日

リフレッシュオープンイベント 作ろう!「きらきら万華鏡」
時間：13：00～15：00
場所：ふれあいホール
講師：大熊進一氏（日本万華鏡博物館館長）
費用：2,500円（材料費） 定員：20名
対象：小学生以上（要保護者同伴）
内容：のそくと星形に見える万華鏡をつくります。（自分の好きなビーズを入れてみたい方は7～8mm以内の大きさのものを当日お持ち下さい）

22/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「液化化って何だろう？」
場所：荒川情報局
時間：13：30～15：30（HPもご確認ください）
費用：無料
定員：随時5名ほど
内容：液化化の実験を通して、自然災害の本質について考えます。

29/日

特別展開連イベント兼かわはく体験教室
「川の生物観察と川の流を学ぶ教室」
時間：9：30～14：30
集合・解散：ときがわ町農村文化交流センター
費用：100円（保険料）
定員：10名（申込順）
対象：小学4～6年生（要保護者同伴）
内容：学芸員と一緒に川の生きものや流れについて遊びながら学びます。
特別展開連イベント「小川町の槻川沿いを歩く」
時間：9：00～15：00
集合・解散：東武東上線「小川町」駅
費用：100円（保険料）
定員：20名（申込順）
内容：川沿いを歩きながら、流域の歴史や自然を訪ねます。

7月

16/土~9/4/日

企画展「あざやかないきものたち」構造色を持った生き物

2/土

かわはく体験教室「氷の実験教室」
時間：13：30～15：30
費用：200円（材料費）
定員：20名（申込順）
内容：氷の性質を学ぶ実験にチャレンジします。

3/日

かわはくであそぼう・まなぼう 川の日記念「七夕かざりづくり」
場所：ファミリー広場
時間：10：00～12：00 13：00～15：00
費用：無料 定員：なし
内容：川の日を記念して七夕かざりづくり、荒川大模型173に飾ります。

17/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～
兼企画展関連イベント「顕微鏡で昆虫観察」
場所：荒川情報局
費用：無料 定員：随時5名
内容：顕微鏡で昆虫を観察します。

24/日

かわはく夏まつり
時間10：00～16：00
内容：子ども向けのイベントを開催します。

ホームページでも紹介しています!

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
Eメール/web-master@river-museum.jp/

彩の国
埼玉県

2016年4月8日発行

